

### ゴミ問題を考える

# 10年後には赤信号？

## 増える一方の処理費……

とどまることの知らないゴミ、ちりもつもれば山となる、を地で行くように——ちりがつもれば処理費は山となる。毎年、毎年ハカにならない費用が灰になっています。埋め立て地も無限にあるわけではありません——。

これから9月にかけて、衛生センターへ運ばれるゴミの量はグーンと増えます。この機会にもう一度、みんなでゴミ問題を考えてみたいと思います。6ページにわたって、衛生センターの現状やゴミ収集などを中心にお知らせします。

### ゴミはお金を食べる化け物

各家庭から出されるゴミは、一日約五十トン。二トン収集車で二十五台分です。この量は、三年前のおよそ一・三倍に増えています。当然これにともない、処理費もばく大な額になっていきます。トン当たりで見ると、昭和四十八年四千八百五円であったものが、五十一年には八千七百五十三円にもなり、約二倍にもふくれあがっています。五十一年の処理費一億六千八百一十万円を、収集人口一人当たりにする、年間千八百二十四円の負担となります。これらのほとんどが、皆さんの税金でまかなわれているわけ

です。

### 高くつく埋め立て処理

処理費がこうして増え続けている原因は、ゴミの中でも、危険物や粗大ゴミなど、いわゆる燃えないゴミが多くなっていることです。月平均百四十トンの危険物が出され、年間で千三百六十八トンにもなります。これらは、埋

めて処理する以外に方法はありません。センターでは、毎年、毎年高いお金を出して埋め立て地の確保に全力投球。

昨年、二千三百四十三平方メートルの土地を八百二十万円で購入しました。今年も六千八百三十三平方メートルを二千七百四十万円の予算で確保する予定です。この埋め立て処理——一平方

坪当たり七千九百五十円の費用がかかりますし、年間、約三千

### さけてとおれない問題

すでに、こういった問題を深刻に受けとめて、減量と再利用運動を展開しているところもあります。たとえば、埼玉県の蕨市では全国に先きかけて古紙回収や空きカンの回収。

### 減量と再利用が必要

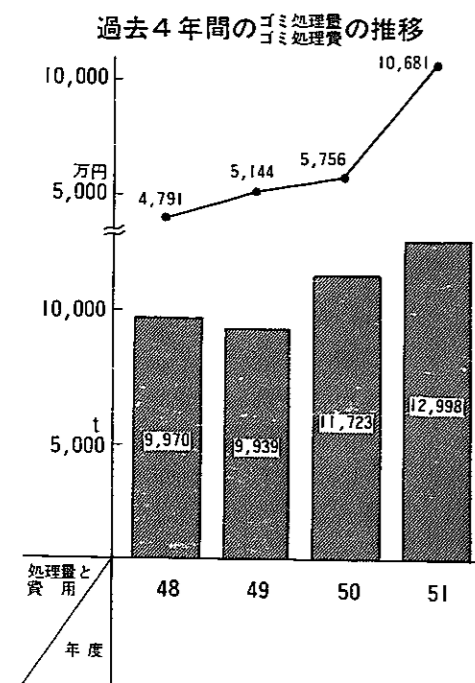
センターでは「あと十年はだしょうぶ」とみえています。でも、埋め立て地は無限にはありません——いつかは埋めつくしてしまうのです。ゴミは文化のパロメーターといわれ、人口の増加、消費生活の向上などからゴミの絶対量が増え続け、ゴミ対策は行政の重要な課題でもあります。そのゴミの中には、まだ使えるものや、資源の利用に回収できるものも、たくさんふくまれています。『消費は美德』といわれた時代はもう過去のことです。青山センター局長も「これからは、不用品の再利用を考え、ゴミの減量運動に取り組むときがきている——」と話します。

新聞などの紙類、ビン類、鉄類などゴミの中には皆さんの資源が眠っていることになりました。この膨大な資源をただ捨ててしまえばゴミはゴミ。場所をふさぎ環境をよごすだけとなります。しかし、このゴミを再利用すればその効用は、はかり知れませんが——一トンの紙は、立木二十本分に相当します。



ゴミの中には、資源として再利用できるものが二〇割から三〇割も含まれているといわれま

### あなたが捨てる三〇割は有価物



#### お盆のゴミ収集

8月15日(火)のゴミと、し尿の収集は休ませていただきます。ご協力をお願いします。

#### 不用品の交換

捨てるにはちょっとこんなときはご利用ください

9月から「ゆずります」「さしあげます」「さがしています」のコーナーを広報紙で新設します。あなたの家庭で不用品でも、まだどこかで役立つものもあるのでは……。利用申し込みは、ハガキか電話で庶務課広報係(☎2111 ☎303・289)へ。



費用も高くつく埋め立て処理